

【学外視察】

開催日：2015年2月25日（水）・26日（木）

視察先：飛騨高山

参加者：32名

概要：

高山市内には、重要伝統的建造物保存地区（三町と下二之町大新町）の町家をはじめ、多くの伝統構法で建てられた木造建築物が現存している。これら伝統構法木造建築物は地域特有の町並み景観を形成するとともに人々の暮らしを支えてきた歴史があり、高山市の歴史的文化財として高い価値のあるものであることから、歴史都市防災研究所関係の教員・研究員ならび学生で視察を行い、現地の行政担当者や文化財所有者からの講義や防災の取り組みに関する情報交換を行った。



【アライグマ・セミナー 2015】

開催日時：2015年3月1日（日） 10:00～16:00

開催場所：中央大学 後楽園キャンパス

主催：関西野生生物研究所、立命館大学 歴史都市防災研究所

共催：生物多様性 JAPAN、NPO 法人天覧山・多峯主山の自然を守る会、トトロのふるさと基金

概要：

アライグマの獣害の拡大とアライグマ侵入に関する社寺調査の持つ意義を、大学、NPO、高校関係者が、それぞれの立場・視点に基づいて講演を行い、とくに市民・学生参加による可能性についての議論が活発に行われた。歴史都市防災研究所からは、客員研究員である関西野生生物研究所代表の川道より、アライグマの獣害発生に至る経緯やその対策に関する全般的な講演が、また米島・中谷より GIS を利用した社寺調査資料の分析結果に関する講演がなされた。

【京都歴史災害研究会】

開催日時：2015年3月9日（月） 17:00～19:00

開催場所：立命館大学 衣笠キャンパス 歴史都市防災研究所 地階 カンファレンスホール

講演者：横浜開港資料館 調査研究員 吉田 律人 氏

「災害と軍隊－明治・大正期の東京衛戍地を事例として－」

概要：

2011年3月の東日本大震災において自衛隊が大規模な災害派遣を実施したのは記憶に新しい。戦前の軍隊は今日の自衛隊のように、災害時の救護活動を行ったのか、明治・大正期の東京を事例に、歴史学の観点から災害時の軍隊の役割についての講演が行われた。

【第 3 回国連防災世界会議パブリックフォーラム歴史都市防災シンポジウム仙台】

開催日時：2015 年 3 月 16 日（月） 13:10～15:45

開催場所：AER6 階 情報産業プラザ セミナーホール（2）

参加者：60 名

講演者：中谷 友樹（歴史都市防災研究所 副所長／文学部 教授）、大窪 健之（歴史都市防災研究所 所長／理工学部 教授）、平岡 善浩氏（宮城大学事業構想学部 教授）、板谷 直子（歴史都市防災研究所 准教授）、ロヒト・ジグヤス（歴史都市防災研究所 教授）、佐藤 孝雄氏（岩手県山田町役場 職員）、佐藤 久一郎氏（上山八幡宮 責任役員）、工藤 真弓氏（上山八幡宮 神職）、鈴木 卓也氏（南三陸ネイチャーセンター友の会 会長）、土岐 憲三（歴史都市防災研究所 教授）（プログラム順）

概要：

2015 年 3 月、国際的な防災戦略について議論する国連主催の会議として、第 3 回国連防災世界会議が仙台で開催され、7000 名近い参加者が集まり、日本における最大級の国際会議となった。そのパラレルイベントとして実施されたパブリックフォーラム事業の一環として、歴史都市研究所では、「歴史都市防災シンポジウム仙台～東日本大震災に学ぶ歴史都市防災まちづくりに向けて～」を主催した。



セッション 3：地元被災者との意見交換の様子

当研究所では、これまで所属メンバーによる現地調査や、主催事業である「文化遺産と危機管理」国際研修での学外視察として毎年訪れるなど、地域の被災者・行政担当者・専門家に多大な協力を得ながら、東北の被災地域での研究活動を継続して行ってきた。

仙台でのシンポジウム開催にあたっては、これまで地域との連携を図りながら行ってきた研究活動の成果発信に加えて、東北地方の復興を願って、市民向けの情報交換の場とすることを目的とした。

セッション 1 では、文化遺産被災地図や地域の文化遺産の防災拠点活用といったこれまで研究所で行ってきた研究に基づく文化遺産と震災についての話題提供がされた。

セッション 2 では、復興過程で有形・無形文化遺産が果たしうる役割について焦点を当てた発表がされた。とりわけ地元の大学として南三陸町の復興に関する研究を進めてきた宮城大学・平岡教授の発表からは、行政主導の復興事業と並行して、住民が歴史・文化の継承、環境保全、教育、福祉に関する草の根活動に奮闘する南三陸の現状がうかがい知れた。

セッション 3 として、これまでの研究活動に多大な尽力をいただいた 4 名の被災経験者の方たちから、復興過程における心のケアと社寺等の宗教施設の関係性、自然条件を活かしたまちづくりの重要性など、地域住民ならではの体験談や防災まちづくりのあり方についての具体的な提言がされた。

当日は国内外からおよそ 60 名の参加があった。各国首脳、政府関係者による本会議や政府間会合とはまた異なる、そこに住まう市民による議論は、防災において災害から文化・コミュニティをも守るという考えに多くの理解・共感を得る機会となった。

【第9回歴史都市防災シンポジウム】

開催日時：2015年7月4日（土） 10:30～17:30

開催場所：立命館大学 衣笠キャンパス 以学館

参加者：140名

講演者：立命館大学 歴史都市防災研究所 所長／理工学部 教授 大窪 健之 他

概要：

立命館大学衣笠キャンパスにて、第9回歴史都市防災シンポジウムを開催しました。歴史都市や文化遺産の防災に関する39件の研究発表と活発な討議が行われ、全国から約140名の参加があった。セッションは、土砂災害、火災、防火、地理・歴史、地震、耐震、観光客、地区防災、防災計画の9セッションで、それぞれ座長である本学の教員のもと、さまざまな研究発表と活発な討議が行われた。

また学術セッション終了後には、所長・大窪健之による特別講演「ネパール・ゴルカ地震の文化遺産と歴史都市の被害状況」が行われ、ネパール・ゴルカ地震による被害状況の調査報告がなされた。

なお、シンポジウムで発表された研究成果については「歴史都市防災論文集 Vol. 9」として刊行している。



特別講演の様子



セッション会場の様子



セッション会場の様子



セッション会場の様子

【立命館大学 ユネスコ・チェア「文化遺産と危機管理」国際研修2015】

開催日時：2015年9月12日（土）～9月28日（月）

開催場所：立命館大学 衣笠キャンパス 歴史都市防災研究所 他

参加者：15名

概要：

2015年9月12日から28日まで約2週間にわたり、立命館大学ユネスコ・チェア「文化遺産と危機管理」国際研修2015を実施した。第10回目となる本年度は、世界各国より166名の応募者があり、その中から、チリ、ガーナ、ハイチ、インド、イラン、イタリア、ネパール、オランダ、パレスチナ、フィリピン、セルビア、タイ、ベトナムから計15名の研修者を選出し、招聘した。

研修者は、日本の文化遺産と危機管理に関する取り組みを、京都での講義と見学、実習を通して学び、長期的な復興について阪神淡路大震災から20年を経た神戸で学んだ。また、東日本大震災から4年半となる宮城県南三陸町では、地元のリソースパーソンを招き、実践的なワークショップを行った。南三陸でのワークショップは今年で3回目となるが、大量の土とコンクリートで埋められはじめた志津川の低地からは、以前の面影が少なくなりつつあるため、海外からの研修生には難易度が高いものになるのではないかと懸念していた。しかし、何度も津波の被害にあいながらその度に再生する南三陸は、参加者の方々には“resilience”の点からとても学ぶところが多く、地元の方々が驚く提案もあり、有意義なものとなった。

立命館大学ユネスコ・チェア「文化遺産と危機管理」国際研修は、これまで実施した研修実績をもとに、立命館大学内外の研究者、国際連合教育科学文化機関（UNESCO）、文化財保存修復研究国際センター（ICCROM）、国連国際防災戦略（UNISDR）など国際機関、文化庁をはじめとする行政、そして現場の専門家など多彩な講師陣、また、世界各国からの研修者の積極的な参加により高い評価を得ている。

本国際研修では、今後も、当研究所の研究成果に基づいた国際社会に向けた成果発信や貢献活動を継続していく。



副総長あいさつ



最初の集合写真



清水寺見学



三寧坂伝統的建造物群保存地区見学



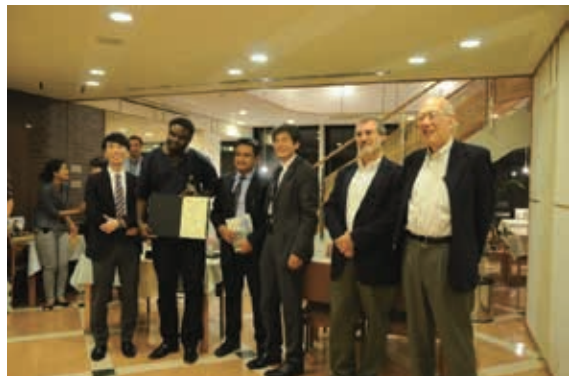
南三陸町上山八幡宮での講義



地元講師とともに南三陸町ワークショップ



過年度研修生による講義



修了証の授与

【講師一覧】

■国外招聘講師

Joseph Alan KING	Director of the Sites Unit, International Centre for the Study of the Preservation and Restoration of Cultural Property (ICCROM)
Giovanni BOCCARDI	Chief, Emergency preparedness and response Unit (CLT/EPR), Culture Sector, UNESCO
German Tiango VELASQUEZ	Chief of Section, Advocacy and Outreach UN Office for Disaster Risk Reduction (UNISDR)
Akatsuki TAKAHASHI	Programme Specialist for Culture, UNESCO Office for the Pacific States (Apia, Samoa)
Peter HEAD	Foundre & Chief Executive, CBE FREng HonFSE FRSA

Aparna TANDON	Project Specialist, ICCROM
Kai Ube Prasad WEISE	Architect, Planners' Alliance for the Himalayan & Allied Regions (PAHAR Nepal)
Qing WEI	Executive Director, Cultural Heritage Conservation Center of Beijing Guowenyan Co., LTD
Hatthaya SIRIPHATTHANAKUN	Specialist in Cultural Heritage Conversation, Southeast Asian Ministers of Education Organisation Regional Centre for Archaeology and Fine Arts (SEAMEO-SPAFA)
Abdelhamid Salah	Chairman, Conservator in the Ministry of Antiquities,
Abdelhamid SAYED	Egyptian Heritage Rescue Foundation (EHRF); Training & Capacity Building Unit Manager, Egyptian Earth Construction Association (EECA)
Vanicka ARORA	Conservation Architect and Board Member, ICOMOS India
Wesley CHEEK	Urban Studies Pre-Doctoral Fellow, City, Culture and Community, Tulane University

■国内招聘講師

木曾 功	内閣官房参与、前ユネスコ日本政府代表部特命全権大使
下間 久美子	文化庁文化財部参事官（建造物担当）付 文化財調査官（整備活用部門）（併）伝統文化課総合活用推進調査官
鶴岡 典慶	京都府教育庁指導部文化財保護課・建造物担当課長
村上 裕道	兵庫県教育委員会・教委事務局参事（文化財担当）
町田 善軌	京都市消防局安全救急部市民安全課・市民安全課長
豊島 純子	神戸市教育委員会社会教育部文化財課文化財保護活用係・担当係長
澤井 健二	摂南大学・名誉教授
Rajib SHAW	京都大学大学院 地球環境学堂・教授
平岡 善浩	公立大学法人宮城大学 事業構想学部デザイン情報学科・教授
大森 彦一	大森設計事務所・代表
後藤 一磨	復興みなさん会・会長
佐藤 久一郎	上山八幡宮・責任上役
工藤 真弓	上山八幡宮・禰宜
及川 博道	一般社団法人南三陸町復興推進ネットワーク・代表理事
菅原 きえ	一般社団法人 南三陸町観光協会

■学内講師

土岐 憲三	衣笠総合研究機構・教授
Rohit JIGYASU	衣笠総合研究機構・教授
板谷 直子	衣笠総合研究機構・准教授
大窪 健之	理工学部 都市システム工学科・教授

深川 良一	理工学部 都市システム工学科・教授
矢野 桂司	文学部 地域研究学域・教授
吉富 信太	理工学部 建築都市デザイン学科・教授
山崎 正史	理工学部 建築都市デザイン学科・特任教授
藤本 将光	理工学部 都市システム工学科・助教

■見学ワークショップ等補助若手研究者

石田 優子	衣笠総合研究機構・専門研究員
金 度源	衣笠総合研究機構・専門研究員
崔 明姫	衣笠総合研究機構・専門研究員

【第 9 回 夏休みにみんなで作る地域の安全安心マップコンテスト】

表彰式：2015 年 10 月 24 日（土）

開催場所：立命館大学 歴史都市防災研究所 地階 カンファレンスホール

応募作品：47 作品 122 名

協 賛：NTT 西日本京都支店、株式会社パスコ、日本ミクニヤ株式会社、F レンタリース株式会社、株式会社帝国書院、第一通商株式会社、まいにち株式会社、株式会社ネスト・ジャパン、NPO 法人災害ボランティアステーション日本（順不同）

後 援：国土地理院、コクヨマーケティング株式会社、京都新聞、KBS 京都、京都市、公益財団法人京都市景観・まちづくりセンター、人文地理学会、立命館地理学会、NPO 災害から文化財を守る会（順不同）

概 要：

立命館大学 歴史都市防災研究所では、大学による社会貢献の一環として、地図の作成を通じて地域の安全安心を考える取り組みを評価し、促進するために、2007 年度より小学生とその保護者を対象に「地域の安全安心マップコンテスト」を実施しており、今年度で第 9 回目の開催となった。本事業は、身のまわりに存在する地震、津波、台風や集中豪雨といった自然災害や、自動車や自転車との交通事故、不審者などによる犯罪など、安全安心を脅かす要素について、小学生以下の子供という災害時要援護者ならではの視点で地図にまとめることで、自らの体験を通じて理解したうえで、周囲とその情報を共有することができる取り組みである。

今年度は 122 名から 47 作品の応募があり、京都府以外の地域からの応募が更に増加した。今年度は「獣害」に焦点を当てたハザードマップなど、新たな視点から作成された作品が多く、また被災時に使う防災ラジオについて地域ごとに受信状況を調べるなど、詳細な調査がされている作品も多く見られ、専門家の関心を引き付けた。

昨年度と同様に、今年度も当研究所の若手研究者が中心となり、京都府内の小学校に出向いてマップづくり講習会を実施するなど、子供の防災や身の回りの安全に対する意識の醸成につながる活動にも力を注いだ。今後とも子どもが地域にひそむ身近な危険について周囲と情報の共有が図れるよう、当該事業を研究所活動の柱の一つとして、引き続き実施する予定である。



表彰式の様子



優秀作品の鑑賞の様子

【アライグマシンポジウム2015「拡大する外来アライグマ:日本とヨーロッパ」】

開催日時：2015年11月27日（金）14:00～18:00

開催場所：立命館大学 歴史都市防災研究所 地階 カンファレンスホール

主 催：関西野生生物研究所、立命館大学歴史都市防災研究所

後 援：生物多様性 JAPAN

講演者：Henryk Okarma 氏（Institute of Nature Conservation Polish Academy of Sciences）、川道 美枝子氏（関西野生生物研究所）、矢野 光子氏（川越女子高校）、米島万有子・中谷友樹（立命館大学歴史都市防災研究所）

概 要：

日本と同様に外来種であるアライグマの被害が拡大するヨーロッパの事例について、ポーランドより Henryk Okarma 氏（Institute of Nature Conservation Polish Academy of Sciences）を招き講演頂いた。また、当研究所ならびに関西野生生物研究所とともにアライグマ痕跡調査に取り組む、埼玉県・東京都10校の高校生による活動も紹介された。



講演の様子



質疑応答の様子

【歴史都市防災研究所定例研究会】

歴史都市防災研究所では、研究メンバーがそれぞれの研究成果について報告をする場として、研究会を定例開催している。発表者および参加者は、当研究所所属の教員、専門研究員等の若手研究者、学生、および客員研究員として当研究所の活動に参画いただいている学外の関係者である。各研究部会・プログラムで進めている研究プロジェクトについて、多岐にわたる専門分野の研究者が活発に意見交換を行う機会として、来年度以降も継続予定である。

今年度開催した各回の内容については、以下のとおりである。

2014 年度

【第 7 回定例研究会】

開催日：2015 年 3 月 7 日（土）13:30～16:30

開催場所：キャンパスプラザ京都 2 階 第 1 会議室

発表者および報告内容：*所属は開催時現在

第 I 部：各研究部会 2013 年度活動報告・2014 年度活動計画

文化遺産防災技術研究部会 鈴木 祥之（衣笠総合研究機構 教授）

大窪 健之（理工学部 教授）

深川 良一（理工学部 教授）

歴史災害研究部会

山崎 有恒（文学部 教授）

歴史都市防災計画研究部会

小川 圭一（理工学部 准教授）

文化遺産における人災・
獣害研究部会

中谷 友樹（文学部 教授）

歴史都市・文化遺産の継承と
保全のための政策研究部会

鐘ヶ江 秀彦（政策科学部 教授）

国際展開・社会連携
研究支援プログラム

板谷 直子（衣笠総合研究機構 准教授）

第 II 部：各委員会からの報告

運営委員会

大窪 健之（歴史都市防災研究所 所長）

評価委員会

土岐 憲三（衣笠総合研究機構 教授）

鈴木 祥之（衣笠総合研究機構 教授）

2015年度

【第1回定例研究会】

開催日：2015年4月18日（土）10:00～12:00

開催場所：キャンパスプラザ京都2階 第1会議室

発表者および報告内容：

藤本 将光（理工学部 助教）

「清水寺後背斜面における現地モニタリングに基づく地盤災害に関する研究」

片平 博文（文学部 教授）

「平安京で確認された内水氾濫 - 貞和五年（1349）六月十一日の洪水 -」

小川 圭一（理工学部 准教授）

「論文題目に基づく歴史都市防災に関する研究活動の傾向分析」

【第2回定例研究会】

開催日：2015年5月23日（土）10:00～12:00

開催場所：キャンパスプラザ京都2階 第1会議室

発表者および報告内容：

泉 知論（理工学部 准教授）「量子化ノイズによる劣化画像に対する画質回復手法」

崔 明姫（衣笠総合研究機構 専門研究員）

「志摩市との官学連携共同研究：地震および津波災害による経済的被害の想定」

佐藤 弘隆（文学研究科 博士課程後期課程1回生）

「京都市都心部における京町家の現状 - 第Ⅲ期京町家まちづくり調査の追跡 -」

【第3回定例研究会】

開催日：2015年6月13日（土）10:00～12:00

開催場所：キャンパスプラザ京都2階 第1会議室

発表者および報告内容：

金 度源（衣笠総合研究機構 専門研究員）

「市民消火栓の開発とユーザビリティ評価 環境防災設備の日常利用促進を目指して」

山崎 有恒（文学部 教授）「明治期京都の歴史災害」

林 倫子（理工学部 助教）「滋賀県水害履歴調査・昨年度実績と今後の展望」

【第 4 回定例研究会】

開催日：2015 年 10 月 17 日（土）10:00～12:00

開催場所：キャンパスプラザ京都 2 階 第 1 会議室

発表者および報告内容：

米島 万有子（衣笠総合研究機構 専門研究員）

「アライグマによる社寺侵入被害の空間分析と研究活動の展開」

崔 明姫（衣笠総合研究機構 専門研究員）「歴史観光都市の経済的被害と復興について」

板谷 直子（衣笠総合研究機構 准教授）／金 度源（衣笠総合研究機構 専門研究員）

「2015 年度立命館大学ユネスコ・チェア「文化遺産と危機管理」国際研修（第 10 回）の報告」

【第 5 回定例研究会】

開催日：2015 年 11 月 28 日（土）10:00～12:00

開催場所：キャンパスプラザ京都 2 階 第 1 会議室

発表者および報告内容：

大窪 健之（理工学部 教授）

「ローマの歴史的な水資源と広場を対象とした地震災害時利用の可能性に関する研究」

谷端 郷（立命館グローバル・イノベーション研究機構 専門研究員）

「昭和期京都市における浸水域の変遷—GIS を用いた時空間分析—」

青柳 憲昌（理工学部 講師）

「国有林野法による京都府社寺上地林の境内編入に示された「風致林野」の防災的意義」

「日本古代の神社（式内社）の立地の傾向と災害危険性の関係に関する研究（中間発表）」

【第 6 回定例研究会】

開催日：2015 年 1 月 16 日（土）10:00～12:00

開催場所：キャンパスプラザ京都 2 階 第 1 会議室

発表者および報告内容：

川道 美枝子（歴史都市防災研究所 客員研究員／関西野生生物研究所 代表）

「日本で拡大する外来アライグマ京都の現状」

酒井 宏平（政策科学研究科 博士課程後期課程 2 回生）

「日常的な防災情報の発信が観光地のイメージに与える影響に関する研究」

豊田 祐輔（政策科学部 准教授）「タイ・タマサート大学との国際共同ワークショップ報告」

【第 7 回定例研究会】（予定）

開催日：2016 年 3 月 5 日（土）13:30～16:30

開催場所：キャンパスプラザ京都 2 階 第 1 会議室

発表者および報告内容：

各研究会 研究拠点形成支援プログラム 3 ヶ年の活動報告／2016 年度以降への課題
内部評価